

錦川清流線あり方検討に関する市の考え

錦川清流線の現状をみると、玖北地域と市街地を結ぶ沿線住民の皆様方にとって大切な移動手段となっているが、人口減少や少子高齢化に伴い、利用者数は開業当時と比較すると、約 70%も減少しており、当時の 3 割程度となっている。また、施設や設備についても、旧国鉄岩日線の開業から 60 年以上が経過していることから老朽化が著しく、修繕や更新に多額の費用が必要な状況が続いている。

その他、開業当時に積み立てた鉄道経営対策基金は残り少なくなっており、さらには、年々増加している赤字額は 1 億円を超える状況が続いており、その赤字を補填している市からの補助金についても、その財源として活用している借入金（過疎債・合併特例債）の資金調達が徐々に困難となることが見込まれており、今後、さらに多くの税金等を投入せざるを得ない状況となっている。

このように、錦川清流線を取り巻く環境は、非常に厳しい状況となっていることから、岩国市としては、清流線の将来のあり方について、検討を始めることとした。なお、検討にあたっては、「廃線ありき」といったものではなく、ニュートラルな立場で、まずは利用状況等の調査や現状分析を行うとともに、有識者や専門家などからの意見や助言を踏まえ、様々な方向性について、今年度から 2 か年かけて検討する。

《参考》

錦川鉄道株式会社設立…昭和 62 年 4 月 1 日 錦川清流線運行開始……昭和 62 年 7 月 25 日
（岩日線運行開始）……昭和 35 年 11 月 1 日

利用者数（人）（※運行開始が S62.7 のため S63 と比較） 資料 2-2

年度	S63	H10	H20	H30	R3
利用者数	584,170	456,982	262,902	156,574	130,066
割合		△21.8%	△42.5%	△40.4%	△16.9%

（対 R3/S63 : 77.7%）

輸送密度（令和 3 年度）

錦川清流線 212 人

岩徳線（参考）1,064 人

旅客運輸収入（千円）（※運行開始が S62.7 のため S63 と比較） 資料 2-2

年度	S63	H10	H20	H30	R3
運送収入	178,534	116,410	87,748	45,366	37,573
割合		△34.8%	△24.6%	△48.3%	△17.2%

（対 R3/S63 : 79.0%）

主な株数（全体 2,400 株）

岩国市…1,100 株（45.8%）

広成建設…180 株（7.5%）

山口銀行…120 株（5.0%）

山口県……400 株（16.7%）

錦川清流線を育てる会…150 株（6.25%）

中国電力…120 株（5.0%）

基金の状況（令和４年３月末現在）

鉄道経営対策事業基金残高…89,444,209 円（当初積立額…661,900,000 円） 資料 2-2

転換交付金	410,000 千円	
地元拠出金	251,900 千円	（内訳）
		山口県 120,000 千円
		旧岩国市 50,000 千円
		旧錦町 10,000 千円
		旧美川町 20,000 千円
		企業 40,000 千円
		住民他 11,900 千円

起債

過疎債（ソフト事業）上限…R7/70,000 千円、R8/46,600 千円、R9/35,000 千円

合併特例債期限…R7

経常損失額

令和３年度決算…122,412 千円（うち鉄道事業営業損失…109,320 千円）

●岩国市錦川清流線あり方検討プロジェクトチーム

錦川清流線の今後のあり方に関する様々な意見や助言を踏まえ見直し代替え案等について協議を行い、あり方検討報告書の作成を目的とする。

●岩国市錦川清流線のあり方について意見を聴く会

岩国市錦川清流線あり方検討プロジェクトチームが錦川清流線の今後のあり方を検討するに当たり、専門的見地から意見、助言等を求めるため、岩国市錦川清流線のあり方について意見を聴く会設置。

- (1) 学識経験者
- (2) 錦川鉄道株式会社
- (3) 西日本旅客鉄道株式会社
- (4) 国土交通省中国運輸局
- (5) 山口県

